

〈資料1〉 三笠小学校PTAの提言要旨

第4分科会 提言要旨

学校田の活動について

(コミュニティ・スクールによる学校や地域との連携について)



提言者 三笠市立三笠小学校PTA会長 花井志夫

1 はじめに

三笠市立三笠小学校は、昨年度開校130周年を迎えた道内でも有数の歴史の長い学校です。昭和42年から小鳥の村の活動を行っており、多くの緑に囲まれた広い校地には、四季折々様々な鳥が集まります。平成24年に隣接する三笠市立三笠中学校とともに三笠小中一貫コミュニティ・スクールに指定され、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てる教育活動に取り組んでいます。

2 なぜ?コミュニティ・スクール

三笠小学校は、平成23年に4校の統合校として児童数は統合前の約2倍に、校区は約4倍に拡大されたことに伴い、通学にはスクールバスが導入され、登下校への不安や、統合により閉校となった地域の住民や保護者の学校への関わりの希薄化が懸念されたことから、コミュニティ・スクールを導入することによって、保護者や地域住民が積極的に学校に関わりをもってもらえるように、平成24年から取組みをスタートしました。

3 コミュニティ・スクールの活動

三笠小学校では、学習支援や環境・安全に関わるボランティアとして、保護者や地域住民が参加しています。

(1) 学習支援に関わるボランティア

放課後教室や夏冬休みの学習サポート、水泳やスキー、ミシン学習等の実技サポート

(2) 環境・安全に関わるボランティア

スクールバスの乗車指導や街頭指導、校地の清掃や花壇の整備、学校図書館の図書整理等

4 学校田の活動

学校田の活動は、5年生の体験活動として、中

学生、高校生、大学生、地域住民、PTA、市教委職員、総勢約160名が参加する三笠小学校のコミュニティ・スクールのメインイベントです。

地域の農業者が苗作りから、学校田の管理まで協力し、田植えや稲刈りの時には、小・中・高校生の混合グループを編成し、指導を受けながら活動することで、様々な人との交流も自然と行われるようにしています。子ども達は、ぬかるむ地面に悪戦苦闘しながら行う田植えや、鎌の扱いにおっかなびっくりしながら行う稲刈り等を通じて、中学生や高校生、そして地域のボランティアとの交流を深めながら、食料生産に携わる農家の苦勞や大切さを学んでいます。そして、収穫した米は、5年生の親子レクにPTAが協力し、子ども達が自らの手で一生懸命おにぎりやカレーライス等を作り、みんなで美味しく楽しく食します。

5 おわりに

子ども達は学校田の活動を通じ、多くの人たちの協力や指導を受け、地域の人たちとの関わりが深まると同時に自分が暮らす街への愛着が一層高まっています。また、参加する地域住民やPTAも、学校をより身近に感じたり、子ども達と一緒に活動をすることにより、生き甲斐や充実感を持つことができます。それが、学校と連携し、地域ぐるみで子どもたちを育てようというコミュニティ・スクールの根幹であり、今後も大切に育みながら、さらに発展していけるよう取組みを進めていきたいと思ひます。

